

## 大熊 健

子供の頃は好きだった絵が、いつしか描けなくなり、そのもどかしさから写真表現をはじめました。ちょっと変わった見たままの景色ではない何か、写実的ではなく、絵のような自由な発想に憧れながら作品作りをしています。

### ■主な展覧会、写真活動歴

- 2017.3 御苗場 2017
- 2017.6 フォトニコ ファイナル 2017 | Photonico (フォトニコ)
- 2018.3 御苗場 2018
- 2018.4 A Chrome 第3回写真展 / 流
- 2019.3 Crane's crest 写真展
- 2019.6 A Chrome 第4回写真展 / 残

## 取り留めのない景色

ある日、僕は、祖父の家に行った。  
いつも決まって入る場所がある。  
そこは、台所のタンスの上から入れる。  
中は薄暗く、布で覆われていて、  
広さは映画館並みだろうか。とても広く感じる。

気づくと僕は、坂道を登っている。  
いつものあの坂道。  
これから、学校に行かないといけなはずなんだけど、  
会社に行かないといけなような気もする。  
でもとりあえず向かわないといけな。

先に進むと、壁がある。  
そこは、壁であって見えるはずがないのだけれど、  
なぜか目の前には空が広がっていて、今にも手が届きそうである。

ふと、顔をあげてみる。  
そこには自分がいるけれど、自分は映らない。

そして、いつもの日常に戻っていく。

僕には、存在しない景色の記憶がある。  
それは、いつもは忘れていて思い出すこともないけれど、  
ある日ふと思い出す。

不確かで取り留めのない景色を、描き出すことはできないだろうか。  
その疑問が、今の作品の生まれるきっかけになった。

大熊 健